

交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会  
東京圏における今後の都市鉄道のあり方に関する小委員会（第6回）  
議事概要

1. 日時・場所

平成26年9月17日（水）17時00分～19時00分  
中央合同庁舎3号館（国土交通省）10階共用会議室

2. 出席者

委員（敬称略）

家田仁、伊藤香織、岩倉成志、加藤浩徳、岸井隆幸、富井規雄、羽藤英二、矢ヶ崎紀子、山内弘隆

3. 議事概要

○議事（1）今後の審議の進め方について

- ・事務局より、遅延対策ワーキング・グループ及び駅空間・防災ワーキング・グループについて説明を行い、設置が承認された。
- ・事務局より、今後の審議の進め方について説明を行い、委員より質問及び意見が述べられた。

○議事（2）空港アクセス等についての関係者からのヒアリング結果について

- ・東海道新幹線が開業50年後に「あの時こういったものをつくって良かった」と思われるのと同じように、長期的な視点から路線の意義を考えるべきである。
- ・空港アクセスとしては、単に事業採算性から見るのではなく、都内の拠点駅への速達性など国際的にアピールポイントになるようなサービス水準の視点も重要。
- ・事業性のみならず、代替性（リダンダンシー）やサービス水準、都市開発とリンクした場合の意義を考えることも重要である。
- ・空港アクセスだけではなく、都市内交通ネットワークの機能向上の面からの評価も必要である。
- ・都心や副都心、業務核都市等へのアクセスについて、それぞれの都市核の重要性を加味したうえで、その改善効果を評価する視点も重要。
- ・前回の答申までの議論では、鉄道不便地域の解消など東京圏の鉄道ネットワークをマクロな視点から考えることが主流であったが、ミッシングリンクの解消によって都市鉄道の大きな機能向上を期待できるという、これまでの議論とは異なる意義も考えられる。
- ・広域的な視点で空港アクセスを考えたときに優等列車をどう走らせるかは非常に重要な視点である。
- ・今後の国際競争力強化のためには羽田空港も成田空港も両方の空港が使えることが重要である。
- ・既存駅での乗換利便性の向上などにより、空港アクセスの改善が図られる例も考えられる。
- ・今後の発展が期待される臨海部の交通政策について、今後のあるべき姿を広範に検討する必要がある。
- ・東京の都市づくりをどうするかという全体の議論を踏まえ、都市鉄道ネットワークの議論の枠組を考えるべき。

- ・今後の都市鉄道のあり方に関する議論のターゲットとしては、2020年東京オリンピック・パラリンピックだけでなく、今後の首都圏空港の容量増大やリニア新幹線の開業なども見据えていく必要がある。また、2020年に向けて、ハード整備だけでなく、案内サイン、非常時のアナウンスのあり方などソフト面でやるべきことはある。
- ・新線だけでなく、例えば駅の改良など既設線のサービスを上げるためにどの程度投資するかという視点も重要。

以上